

平成二十六年十一月二十四日

花粉症なる病、かつて世に無けれども近年その季節には街中にマスクする人を多く見る。マスクの形状色彩、四角かつ白が普通にて例外を見ることの少なき、我をして不思議の感を抱かしむ。

同じく人の顔に置く道具に眼鏡あり。これ世に出でし頃には、用に立つことのみ計られ、その見掛けは考慮の外にあり。すなはち眼鏡の枠(フレーム)が役割はレンズを眼の間近に支へることにしてそれ以外には無し。漫畫に見る、大久保彦左衛門ら老侍が眼鏡の枠、レンズの形に合せて眞丸なり。

その後、眼鏡業者勘考を重ね、何處の知恵者なりや、良く發想轉換して眼鏡を装ひの一とする道を見出し、而してこれに大なる價值を附加したり。今や素材も色も形も様々なる眼鏡の枠ありレンズは枠に合せて作らるるが如し。ファッション眼鏡の枠の價格、レンズのそれを超ゆるも珍しからず。一部には金滿振りをひけらかす小道具となりて、枠にダイヤモンド入るさへありと言ふ。視力を補ふべき目的を離れたる商品、眼鏡業界が利益の過半を齎すと思料す。

他方、舊態依然たるマスク業界は、衛生の用にのみ商品を供し、固定觀念打破の氣迫無きを怪しむ。これ資本主義自由經濟の有様とも思へず。彼らが成せる多少の工夫は、顔と布の隙間より空氣黴菌通過するを防がむと、その個所に柔き針金を用ゐる程度のことにと過ぎず。業者の關心は、價格競争にのみあるらし。大量生産による價格低減にその努力を傾注し遂には過剰生産に陥りたるか、今や何處の店にても、箱買ひせば大幅割安珍しからず。實に勉強不足の業界と言ふべし。

眼鏡は必ず透明なるべく、さにあらざればその效用、得ること叶はず。このこと初めに商品を多様化せしめむとして極めて大なる制約とぞなりけむ。對するマスク、さしたる窮屈さ無ければ、設計加工に自由發想の餘地、頗る多かんめり。良きデザイナーを雇ひて、髮型、肌の色、顔の形と調和させ、花柄模様、タータンチェックのマスクなどを市場に問ふこそあらまほしけれ。

更に進めて、マスクに繪を描くは如何。不格好の鼻を恥づる娘に、望みの形を描きたるマスクを充てがふ、これ良策ならずや。この娘、美しき鼻描けるマスクを着、誇らしく街を闊歩すべし。想像するだに樂し。勿論、器量に自信ありてむしろ素顔出したき花粉症美少女向には、透明マスク考案されてしかるべし。

アベノミクスはクールジャパンを海外に喧傳の意向と承知す。世界に先驅けてファッション・マスク賣出すべし。